

第 106 回入札監理小委員会

議事録

内閣府官民競争入札等監理委員会事務局

第 106 回入札監理小委員会 議 事 次 第

日時：平成 21 年 9 月 8 日（火） 17:45～17:58

場所：永田町合同庁舎 1 階 第 1 共用会議室

1. 開 会

2. 議 事

1. 実施要項（案）の審議

○東京国立博物館の展示場における来館者対応等業務（（独）国立文化財機構）

2. その他

3. 閉 会

<出席者>

（委 員）

小林副主査、逢見副主査

（（独）国立文化財機構）

本部事務局 金谷事務局長兼東京国立博物館総務部長

東京国立博物館総務課 吉田課長、本部事務局総務企画課 藤本課長

（事務局）

佐久間事務局長、上野参事官、山西参事官

○小林副主査 それでは、ただいまから第 106 回入札監理小委員会を開催いたします。

本日は、独立行政法人国立文化財機構の「東京国立博物館の展示場における来館者応対等業務」の実施要項（案）について審議を行います。

本日は、国立文化財機構本部事務局、金谷事務局長兼東京国立博物館総務部長に御出席をいただいておりますので、前回の審議や意見募集の結果を踏まえた実施要項(案)の修正点等について御説明いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。なお、説明は 5 分程度でお願いいたします。

○金谷局長（（独）国立文化財機構） 承知いたしました。今お話があったように、前回からの修正点を中心に御説明をさせていただきたいと思っております。

まず、実施要項でございますが、12 ページ、「民間競争入札に参加する者の募集」の(2)の「入札実施手続」の提出書類というところで、一応提出書類をいろいろ御提出いただくに際して疑義が生じるような場合も想定されることから、最後のセンテンスで 3 行ですが、「提案書の記載内容や具体的な実施方法について不明な点がある場合には、東博等は入札参加者に対して、追加資料の提出を求めたり、ヒアリングを実施することがある。」という記述を加えて、そういったことに対する事前のお知らせをすることといたしました。

変更点といたしましては、そこだけでございます。あと、パブコメに対する質疑につきましては、今回特にございませんでしたので、それに関する修正項目も当然ございません。この辺につきましては、業務自体がかなり特殊だということもあり、よく周知をした方々が内容を熟知していただけた。いろいろと修正等を加えた点もございまして、よく御理解いただけたというふうに考えております。特にこちらからの御説明は以上でございます。

○小林副主査 ありがとうございます。それでは、ただいまの御説明につきまして、御意見、御質問をお願いいたします。

○逢見副主査 パブコメが一件もなかったということなので、実施要項が完璧にできていたのか、あるいは、もともと参入する人たちが少ないのかというのがありますが、ただ、実際、本当に競争性のある入札ができるのかどうかという懸念がちょっとありますけれども、過去は一般競争入札ですけれども、これをやってみて、競争性のある入札になる見通しはあるのでしょうか。

○金谷局長 一般競争をやったときで、前は 3 者来ておりました。ただ、やはり多少特殊な業務だということもあり、そんなに何百者もあるほどの市場ではないにしても、数者は更にあるので、そういった意味での競争は十分していただけるのではないかとこのように考えております。

○逢見副主査 これは単価契約なので、要は単価を幾らにするかということが落札できるかどうかの最も重要な局面ですよね。もちろん、いろいろな提案というのがありますけれども、最終的には単価だと思っておりますが、単価を入れるに当たって、過去に実施してきた事業者の方がノウハウとか、そういうものについて熟知しているということで、新規参入がそういう点で情報がちゃんと開示された中でできるかどうか、そこは大丈夫でしょうか。

○金谷局長 東博もかなり古いところまで遡りますと会社さんが代わった実績もあるやに聞いておりますし、上野の森全体での文化施設での情報交換というのは非常に頻繁にやっております、何回か入れ交わっている美術館・博物館もあるようでございますので、その点については特に懸念はないのではないかと考えております。

基本的に、例えば扱っているものの種類ですとか、そういう違いは多少あるということ、ノウハウの若干の差はあっても、文化財とか美術品をお客様にお見せするに際してのノウハウという意味では大きな差はないだろうと見ておりますので、当然、交代されるという場面やノウハウに関しても、さほど有利不利があるというものでもないだろうとは思っております。実際に3者とか数者と申し上げているのは、江戸博とか、そういう情報も全部含めて、大体このぐらいあるんだという情報の中で申し上げている内容でございます。

○小林副主査 ただいまの逢見委員の御発言で十分だと思うんですけど、私、すごく細かいことで1点だけ確認したいのですが、業務別費用の内訳詳細のところ、2年間契約のところ、22年度と23年度というふうを書く欄があるじゃないですか。そこは、ここでは計算上は単価を設定していただいて業務時間、日数で決まってしまうということで、そういう理解でよろしいんですね。

○金谷局長 ベースといたしましてはそうございまして、なぜこういう単価契約にしなければならないかと申しますと、前にもちょっと御説明したことがあったかもしれませんが、例えば94万人以上入った「阿修羅展」のようなものと、実は先週の日曜日で終了した「伊勢神宮展」というのは、入った入ったと言って11万人でございますので、これだけの開きがございます。これは特別展でございますが、特別展に人が大量に押し寄せた場合には、それとの関連でやはりほかの人員配置なども変えざるを得ない場面が生じてきますので、そういったことも含めて、単価でやらざるを得ないという部分がございます。そういう意味で、これでお出しいただいたものを総価で比較をして最終的に単価を採用するというような手法をとっております。

○佐久間事務局長 22年と23年と2つの数字を出す意味ですね。

○小林副主査 意味ないですね。そこなんです。ありがとうございます。

○金谷局長 そうですね。年度要件については、特に大きな意味はないと思います。

○小林副主査 例えば、今おっしゃられたように、「阿修羅展」みたいな特別展がすごい集客があって、人数配置とかも変わる場合があって、そこには実際、実績としては変動する要因があって、だから、たぶんそういうことに対応できると思いますか、対応する必要があるということが前提というか、そういうことが基本に含まれているということですね。

○金谷局長 はい。特別展に直接関わるのは、それもそういう場合があるということも記述させていただいておりますが、実は「阿修羅展」というのは、お客様が大量にお見えになられたのでかなり日程変更とか時間変更をしているんです。そうすると、その部分で

単価とか超勤の部分で変わってきたりとか、いろいろなそういう変動要素が出てきます。更に、どうしてもそこの行き来のところで1人では足りなくて2人になるとか、そういうこともあるので、特別展の部分は直接は関係ないんですが、関連する部分で増える場合があるということです。

○小林副主査 コラムとしては、別に年額が幾らで、契約の年数でこれだけになりますという記載でいいのかなというふうにも思いましたので。ここでは同じ数字を書くんでしょう。

○事務局 22年と23年の欄ですか。

○小林副主査 ええ。

○事務局 22年と23年の金額は違う可能性がありますよね。

○小林副主査 ありますか。

○吉田課長((独)国立文化財機構) このフォーマットを整理したのは私なんですが、先行する施設等管理が2年半というちょっと中途半端なものがあったので、それで年度ごとの額がちょっと変わって、それに引っ張られてこういう様式になっているので、丸2年だと確かに同じ数字が2年分入るだけということになる可能性はあるので、例えばそういった半端な期間があるとそういう欄が意味をなしたのかもしれませんが。ですから、御指摘のとおり、今回の2年については、2年分まとめて書いてもらってもいいのかもしれませんが。

○小林副主査 済みません、細かいことで申しわけないです。

では、ほかにないですか。

○逢見副主査 結構です。

○小林副主査 事務局は何か確認すべきことはありますか。

○事務局 特にございません。

○小林副主査 それでは、本日、要項(案)につきましては、事前検討会を含めてこれまで3回の審議を行いましたけれども、本日をもって小委員会での審議は概ね終了したものととして、改めて小委員会を開催することはせず、実施要項(案)の取扱いや監理委員会への報告資料の作成については、私に一任いただいてもよろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

○小林副主査 ありがとうございます。では、今後、実施要項(案)の内容等に何か疑義が生じた場合には、事務局から各委員にお知らせし、適宜、意見交換をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

委員の先生方におかれましては、本日、質問できなかった事項、確認したい事項がありましたら事務局にお寄せください。事務局に整理をしていただいて、各委員にその結果を送付させていただきます。

また、国立文化財機構におかれましては、本実施要項(案)に沿って適切に事業を実施していただきますようによろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

(独立行政法人国立文化財機構関係者退室)

○小林副主査 では、本日の入札監理小委員会はこれで終了したいと思います。